

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年8月23日

氏名 (フリガナ)	織田彩花 (オダアヤカ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名 学年	東京女子医科大学 5年
<p>私は5年の春の1ヶ月間に、大学のプログラムを利用して交換留学をさせて頂く予定があり、その準備及び英語力の向上を目的に応募させて頂きました。さらに春の留学ではイギリスに行くため、今回はアメリカでの医療の実態及び医療制度を現地で学んで、肌身で感じたいという思いもありました。正直、医学英語に関して自信がなく、出発前はかなり不安だったのですが、今振り返ってみると短い期間の中でたくさんの刺激を受け、非常に充実した日々を過ごすことが出来ました。</p> <p>今回の研修プログラムで最も印象的だったのは毎日、行われた case presentation と history taking の練習でした。日本語ではやったことがあったのですが、英語ではやったことがなかったため、問診の仕方、鑑別疾患の考え方、さらにそれを簡潔にかつ聞きやすいようにプレゼンにまとめるのが最初は難しく、悩むことが多かったです。しかし、history taking でのポイントや言い回しの講義、case presentation のやり方の講義、さらに毎日の練習を通して少しずつ上手くなっていることを実感することが出来ました。最初は history taking をした後に case presentation のために準備をして書き直しなどをしていたのですが、最後は history taking をしながら case presentation の準備が出来るようになったことが自分の中で最も大きな成長かと思っています。またハワイ大学の医学生との history taking の後に、先生に1対1で case presentation を行い、feed back がその場で頂けるため、短期間ではありますがかなり充実して効率よく学習できるプログラムになっていました。</p> <p>さらに今回は PBL (problem based learning) もやらせて頂いたのですが、系統講義中心の私としては非常に勉強になり、自分の出来なさを痛感する良い機会となりました。1つの症例に対して論理的に考え、少人数のグループに分かれて discussion をするという勉強法はこれから臨床の現場に出ていく身として重要なことだと思いますので、今後友達同士で自主的にやっていきたいと強く思うようになりました。</p> <p>医学英語や臨床留学に興味がある学生が全国からこのプログラムに参加するため、皆さんの意識が高く、刺激を受けることが多かったです。さらに今後留学される方が多かったため、様々な国の留学後の話を聞くことが出来る仲間に出会えたことは大変嬉しく思っています。</p> <p>私はイギリスに1ヶ月間留学するため、今回の研修プログラムきっかけに医学英語、history taking、case presentation などを継続的に学習していき、少しでも成長した状態で留学に臨めるように頑張りたいと思うようになりました。</p> <p>最後になりましたが、今回の研修プログラムを支えて下さった日米医学交流財団の皆様、ご指導頂いた先生方、HTICのスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。</p>	